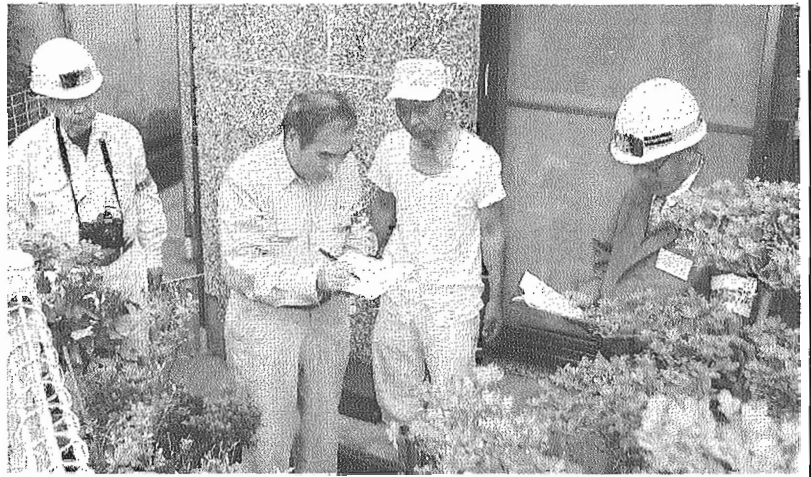


危険度の住民意識調査 136カ所、標示看板の確認等



危険箇所付近の住民に聞き取り調査を行う会員
＝鹿児島市の西陵2丁目で

つげ「きょうは曇天でまさに点検日和。皆さんの活動は『砂防メールかごんま』（砂防課発行）でもぜひ紹介したい」と激励した。

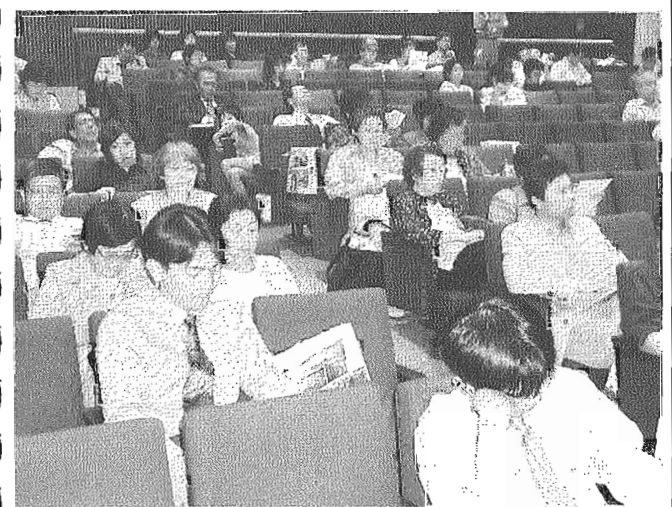
同市西陵2丁目では、稲田会長や羽田忠彦事務局長らが住宅を訪ね、調査表にそって「危険箇所であるか」「危険を感じたことがあるか」「避難場所や避難経路を知っていますか」等を聞き、これに対して住民らは「恐い目にあつたことがある」などと答えていた。

九州砕石会県支部会 協賛

採石場合同パトに協力

九州砕石会県支部会（伊東計会長）は9日、鹿児島市の鴨池ACアネックスで全員協議会並びに13年度第1回研修会を開き、新年度事業の推進計画を決めることと、ロバート議事法について学んだ。

同支部会は、砕石業に携わる正会員55歳以下の17人で構成、今年から本格的に活動を再開している。全員協議会では、伊東会長を議長に選出し、県支部の会則と13年度事業推進計画案等を審議、全会一致で決定した。新



高齢社会の新しい住まいづくり バリアフリー住宅は システムから

住まいと建築展

かごしま住まいと建築展の講演会「高齢社会の新しい住まいづくり」は6日、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で開き、住宅や高齢社会の住宅づくりを学んだ講演会「鹿児島市の県歴史資料センター黎明館」で。

講師は（株）地域生活情報センター代表取締役の榎木保氏氏が務めた。榎木氏は「形」ではなく「システム」であるとして、そのポイント①動きやすい②シンプルで間取り③回遊性のある動線計画④小さな段差のない滑り

な原則として行う会議運営の方法を指す。

研修会では、初めに中西会長が「砕石会の再出発を心からお喜び申し上げる。活発な活動に期待している」と挨拶。続いて、効果的な話し方や会議の意義と必要性、進め方等を解説した後、模擬会議を実施した。会員らは、真剣な表情で取り組んでいた。

環境報告書 まとめる

戸田建設

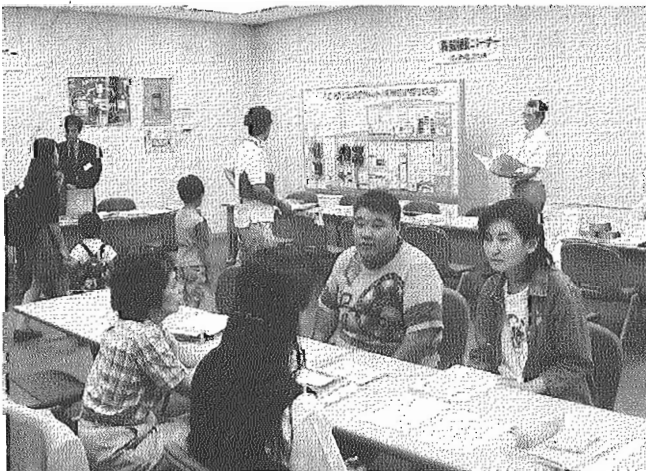
戸田建設はこのほど、2000年度の環境保全活動の実績を「環境報告書2001」としてまとめた。それによると、建設廃棄物排出量を前年度比で約4%、1.5万トンを削減。施工床面積当たり混合廃棄物排出量は全社平均8.3kg/平方メートルを達成した。

建設汚泥については、作業所内での脱水、濃縮による減量化により79%を再利用し、前年度よりも再利用率が14%向上。環境保全コストは全体で約112億円。事業エリア内コストは全体の約8割に当たる89億円。そのうち資源循環コストは約47億円、公害防止コストは約40億円となっている。

報告書では、昨年11日に達成したゼロエミッションについても、具体的な取り組みが紹介されている。

九電オール電化住宅フェア

女性部会が建築相談



建築相談など多彩なイベントがあったフェア
＝鹿児島市の九州電力鹿児島支店で

九州電力（株）「オール電化住宅体験フェア2001」が6日から3日間、鹿児島市の九州電力鹿児島支店内で開かれ、多くの来場者で賑わった。同フェアは、住む人にやさしい快適住宅を目指し、女性部会が建築相談



模擬会議も行った研修会
＝鹿児島市の鴨池ACアネックスで

次年度も更なる結束を

知覧町造園協会総会

川辺郡知覧町造園協会（会長・駒水光郎）は6日、知覧町のさくら館で13年度通常総会を開き、地域に根差した奉仕活動、会員間の更なる連携強化などを盛り込んだ事業計画を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、現執行部体制の継投を決めた。総会では、駒水会長が「名誉ある会長職を引き受けてあつた2年間の2年間で、会員10社の支援・協力を得ながら事業を実施できました。特に、共同作業での駆除活動では真夏の7月、夜遅くまでの苦労はまさに一致団結、誇れる結果



現執行部体制の継投を決めた総会＝知覧町のさくら館で

ボランティア協取り調査を実施した。同会は県土木部OBらで平成4年設立。土木行政の経験や技術を生かして毎年、危険箇所の点検調査や地区住民の危険度の意識調査などを行っている。会員は現在、144人。付近住民の聞き

九州電力（株）「オール電化住宅体験フェア2001」が6日から3日間、鹿児島市の九州電力鹿児島支店内で開かれ、多くの来場者で賑わった。同フェアは、住む人にやさしい快適住宅を目指し、女性部会が建築相談